はたらく女性のフロア通信

発行日　2017年9月25日

NO. 32

はたらく女性のフロアかながわ（WWFK）

〒221-0855　横浜市神奈川区三ツ沢西町８－２５－２０３　本間重子気付

電話／FAX　０４５（３２３）０６５３　E-mail　wwfk@hotmail.co.jp

HP　http://wwfk.jimdo.com/

「クロネコヤマト問題から見る「働き方改革」」

８月３日、かながわ県民センターで「はたらく女性のフロアーかながわ」の第９回定期総会を開催。

総会終了後、会員の澤田幸子さん（神奈川労連労働相談センター）から「クロネコヤマト問題から見る「働き方改革」」のお話を聞きました。

▼過労死ラインを超える働かせ方

ヤマト運輸での残業未払いや働き方の問題はマスコミでも取り上げられ、大きな波紋を広げているところですが、この問題が明らかになったのは、2016年6月、神奈川労連の労働相談センターに二人の労働者が相談したことがきっかけです。

二人の労働時間は端末で1か月293時間、タイムカードでは300時間を超えることが当たり前、月80時間の過労死ラインを頻繁に超える働かされ方でした。

▼残業代未払いを明言させる

相談後、労基署に「不払い残業代の請求や長時間労働の是正等」を求めて申告し、「是正勧告」が出され、国会でも田村智子参議院議員（共産党）が追求するなどを経て、2017年6月、ヤマト運輸にヤマトホールディングス傘下のセールスドライバーなど5万9千人分、230億円の残業代未払いがあったことを明言させることができました。

会社は、27年ぶりの宅配便の料金値上げ、時間指定のシステムの見直し、契約社員やパートでの対応で9200人の増員、労働時間管理の検討など改善をはかる方向ですが、これで長時間労働がなくなるかは見守っていく必要があります。

第9回総会の様子

▼自殺や過労死をなくす社会へ

クロネコヤマトの残業代が支払われることになった経過や長時間労働が常態化してきたしくみ、過労死の現状を知り、非常に勉強になりました。

タイムカードの時間と、実際の労働時間とに差があることは、自分でも介護老人保健施設で味わっている身なので同じだと思いました。

話し合いの中で、「息子が夜中の３時４時に帰ってきて、朝７時に出勤するのが普通になっているのが怖い」と言う発言がありました。私の息子も、そういう社会にこれから出て生きていくようになるのかと思うと、空恐ろしい気持ちになりました。自殺や過労死の犠牲者がさらに生まれる危険があるこの社会を変えていくには、この現状を、周りに知らせていくことが、今、私たちにできる第一歩と思いました。

＜報告：中嶋ひとみ（会員）＞

新涼や奥の院より尼二人
すれちがう力士ゆるりと酔芙蓉
佐知子

高麗博物館見学＆韓国料理で望年会

とき：**12月23日（土）**12時～

ところ：高麗博物館に12時に集合

新大久保駅下車徒歩7分第二韓国広場ビル 7階

スケジュール：

特別企画展『朝鮮料理店・産業「慰安所」と朝鮮の女性たち』を見学

13時～　韓国料理で望年会

＊渡辺泰子さんの案内

2017年はたらく女性の神奈川県集会

とき：**11月25日（土）**

12時30分～16時30分

ところ：建設プラザ2階

記念講演　「韓流 女性労働運動と社会連帯から学ぶ(仮題)」

講師：金 美珍(KIM Mijin キム ミジン)さん（大学特別研究員）

★12時～バザー

★3つの分科会あり

WWFK第９回定期総会から

総会は本間さんの「この会は息長く、通信は定期的に発行されていて素晴らしいと思います。これからもやりたいことは無理せず、あきらめず、じくじくやっていきたいと思います」とのあいさつではじまりました。

代表の小島さんから2016年度活動報告及び、2017年度活動方針案の提案がなされ、佐久間さんから2016年度決算報告、2017年度予算案が提案されました。白井さんからは会計監査報告と共に、「会費が23人分しか集まっていないので会費未納者は、どうするか」との問題提起がありました。それに対しては、「郵便振替（個人口座）で会費納入できるように検討を」「会員は何人なのか？会員名簿があれば、会った時に声をかけられる」など意見が出されました。

会員は35名。会費納入を忘れている人もいるので、声を掛け合い会費納入を頼みましょうということになりました。

当面の活動として11月25日の「はたらく女性の神奈川県集会」や「高麗博物館見学」に取り組むことが提案され、活動報告、方針、決算、予算とも拍手で承認されました。

閉会のあいさつで村田さんは「後期高齢者の年収100万円以下の人たちの健康保険料が跳ね上がる、加えて今1割負担の医療費は、2019年からは2割に。介護保険の利用料も2割、3割負担になるなど、ひどい世の中」と報告しました。

【2017年度の事務局体制】

代表　小島八重子
事務局　池田資子、佐久間由美子(会計)、
　伍淑子、本間重子、中嶋ひとみ、村田泰子
会計監査　白井洸子
編集委員　池田、本間、小島

介護老人保健施設に勤めて1年

中嶋ひとみ（会員）

「せっかく資格があるのに働いてないの？いちど介護の職場を見に来てよ！」と以前の上司から何度も誘われ、訪ねたのがきっかけで去年の９月から再び看護の仕事に復帰しました。

仕事内容は胃瘻栄養の管理、食事介助、創傷処置、与薬、受診時の付添いなどが主です。月に８日程度なら、私で役に立てれば嬉しいという気持ちでした。ところが始めてみると、９時出勤では仕事が回らず、20分前くらいから仕事を始めないと間に合いません。終了時間もほぼ30分は残業が当たり前になっていました。看護師は次々にやめていき、その後の補充がないので月８回勤務の約束が守られたのは今年に入ってから一度きりでした。回数は次第に増え、16回と言われた月もありました。

３月になって「就業規則等に違反し損害を与えた場合は賠償責任を負う」という内容で二人の保証人の印鑑をついた契約書を提出するよう求められました。就業規則を要求したところ、時給、就業開始と終了時間、休憩時間が書かれた契約書をくれました。月８回勤務という記載がなく、やめる時は２カ月前に伝えることなどが書かれていました。そこで契約書に基本８～１０回と追加で書いてもらいました。やめるのも２カ月前に伝えるのは無理と主張しましたが、うやむやのままです。

看護師に余裕がないので、病気や怪我で予定外に休むと他の看護師が休みを返上して出勤することになり、毎月の規定の休暇を翌月に繰り越す人も出てきます。介護スタッフも同様に人員不足です。入浴介助係が、急に休んだりすると、前日夕方から出勤している夜勤者が、朝９時半に帰れず、休んだスタッフの分の入浴介助まで終えて、昼近くまで残業しています。先日は13時30分まで４時間の残業をしていました。受診に付添うことになり、午後遅くまで付添っていたという話も介護職の人から聞きました。

労働安全衛生委員会に出た先輩ナースは、「残業はありませんね？と産業医に聞かれたけど婦長さんが黙っていたから私も黙って帰ってきちゃった」と言うので、「組合もない職場だから職場の代表として、体を壊すような過酷な現状を伝えてくれないと困るわよ。規定時間よりもいつも早く来て、いつも残業せざるをえないし、時間外届けもなるべく出さないように言われているでしょ？休憩時間だって入所者と退所者の時間が初めから休憩時間のところに予定されているんだから休憩が取れないシステムじゃないの」とアルバイトの私が文句を言っても、常勤者はあきらめている様子でした。

人がいないことのシワ寄せはすべて患者さんに回り、「おむつかえてください」と訴えられても、その場を離れるには誰か代わりのワーカーがいないと対応できないので、結局定時のおむつ交換まで待たせることになるのです。そんなことが重なって、褥瘡の人も多い何とも悲しく痛ましい老健施設の現状です。

君嶋ちか子がゆく⑨
・・・神奈川県議会報告

9月の代表質問で、「ヘイトスピーチ・デモを許さないために、神奈川県が具体的な動きを」と知事に求めました。

＜法成立後、自治体などでは＞

昨年5月のヘイトスピーチ解消法成立後、川崎市は公園使用を不許可とし、横浜地裁は桜本でのデモ禁止の仮処分決定を行いました。川崎と並びヘイトスピーチ・デモが頻発している大阪市では、全国初の条例制定を行いました。愛知県の県営施設使用不許可、京都府のヘイトスピーチ対策専門委員会設置などもあります。川崎市は、引き続きガイドラインや要綱策定をめざしています。

＜デモだけではない！＞

7月16日、ヘイトデモが川崎市中原区内で行われました。20名ほどのデモ参加者が観光バスで乗り付け、約700名の警官に守られ約300メートルの「デモ」を行いました。

一方で警官は、ヘイトに反対する歩道の市民約1000名に厳しい監視を続け、市民から「おとりか」と怒りの声が上がるほど市民を翻弄する役割まで果たしました。

彼らは、これをもって「我々の勝利であり、今後も川崎において憲法で保障された自由な活動を継続する」とネット上で宣言しています。ネット上では、暴力的かつ差別的な攻撃もエスカレートしています。

法制定の際に参考人ともなり、ヘイト反対の先頭に立っている崔江以子（チェカンイジャ）さんには頭部を切断したゴキブリの死骸が、デモ後送り付けられました。「ゴキブリ朝鮮人は一匹残らず叩き出せ」などと叫んでいた彼らからです。

被害にあった方は「心が死ぬ」といいます。かつエレベーターに乗る時も、バスから降りる時も恐怖を感じるといいます。日常が脅かされているのです。

＜知事の答弁＞

「この状態が他でもない神奈川で起きている。ヘイトスピーチ解消法を受け、自治体としての姿勢を示し抑制力ともなる条例化や喫緊の課題であるネット対策に踏み出すべき。県民の切実な願いに神奈川県が答える時」と求めたのですが、知事としてのアピールはするが「自治体としては動かず」ネット対策などは「国の動きを待つ」という知事の答弁でした。

「共生社会をめざす」といいながら、いつもの「国まち」のパターンに陥っている神奈川県です。

映画が好き
「米軍（アメリカ）が最も恐れた男 その名は、カメジロー」

池田　資子（会員）

アメリカ占領下の沖縄で米軍に立ち向かった瀬長亀次郎のドキュメンタリー映画です。亀次郎は1907年生まれ、今年は生誕110年です。そしてまた、沖縄返還45年、日本国憲法施行70年という記念の年でもあります。

監督はテレビでお馴染のキャスター佐古忠彦。もともとはテレビで放送された番組でしたが、視聴者の反響が大きく、追加取材を重ねて今回の映画になりました。テーマ音楽は坂本龍一、語りは山根基世と大杉漣が担当しています。

通常のドキュメンタリーと異なり、ナレーションと膨大な資料が映画の大半を占めています。沖縄を知らない人たちにもわかってもらいたいとの製作側の思いです。私も沖縄のことは知らない部類の人間です。自分のこととしては受け止めておらず、見て見ぬ振りをしていると思います。

瀬長亀次郎に関しては痩せた、眼光鋭い、しかし、笑顔が魅力的な政治家という認識です。亀次郎は「どんな嵐にも倒れない。沖縄の生き方そのもの」だと言って、ガジュマルの木を愛したそうです。そして、好んで使った言葉が「不屈」です。

戦後、うるま新報（現、琉球新報）の社長に就任、沖縄人民党結成、第1回立法院議員選挙当選、不当逮捕により懲役2年の投獄、那覇市長当選・追放、国会議員など常に県民の幸せを考え語り行動します。「一握りの砂も、一坪の土地もアメリカのものではない」と土地接収に抗し、人々の団結を訴え、みんなが声をあげればその声はアメリカに届くと激励します。演説会に10万人が集まったと言います。演説を聞いた人の中から現在の沖縄を支える政治家が生まれています。「オール沖縄」の原点がカメジローです。そのひとりの男を追放しようとするアメリカの何と非民主的なことか。そして本土の政府、国民は…。

一度でいい。瀬長亀次郎の演説の場に身を置いてみたかった。今、沖縄の地に立たなければと強く思っています。

80歳の日々、雑感

本間　重子（会員）

今年初夏、5月で80歳。

思いがけなく友人たちが、「傘寿おめでとう」の会を催してくれるという幸せに恵まれました。呼びかけてくださったのは、横浜市従業員労組婦人部の活動に参加し、ともに闘った友人たちの有志で、当日は30人の方が出席してくださいました。中華料理の昼食を楽しみ、談論風発、お互いにパワーを交換し合うひとときになりました。

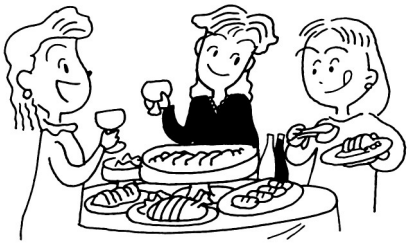
労働組合運動、特に婦人部の組織化と運動に関心を持ち〝考え行動する女性〟のひとりであった私は、祝う会を開いてくださるという話があった時、おこがましいと思いながら共に活動してきた友人・知人たちが退職後の現在、どのような活動をされ、今後どう歩まれるかを交流できる機会にしてほしいと、お言葉に甘えた次第です。

当然のことながら出席された方々は皆さん元気で、さまざまな分野で活動したり楽しんだり…。例えば定年後短歌を詠み朝日歌壇に度々登場されるとか、音楽療法の指導をしている、年金者組合の役員をしている、看護師や保健師を目指す人のガイドブックの監修で若い人たちを励ましている等々。

ところで、私が生まれたのは1937年5月。その年の７月7日に中国・北京市南西の永定河にかかる橋＝盧溝橋付近で、日中両軍隊の小衝突をきっかけにして、その後の15年戦争へ突入したのです。

母から「重子が生まれた年に盧溝橋事件が起こって、日中戦争が始まった」と度々聞かされていたので、今年がその80年に当たることと、自らの80年が結びついてしまうのです。今思うと本間家の暮らしに戦争の影響が出始めたことを母は感じていたのでしょう。

今年は戦後72年、今まで語られなかった日本の戦争の実相や経験が明らかにされつつあります。TVのドキュメンタリーを見て幾度も胸のつまる思いをしました。



東京のど真ん中に米軍基地 六本木の「麻布米軍ヘリ基地」

佐久間由美子（会員）

6月27日女の平和主催で、東京麻布にある米軍ヘリ基地（赤坂プレスセンター）見学が行なわれました。都心の一等地、六本木ヒルズから見下ろすことのできるこの基地は、約27,000㎡、旧陸軍麻布三連隊の施設を戦後米軍が接収したもので、グーグルマップには「六本木ヘリーポート」、「星条旗新聞社」「Hardy barracks（宿泊施設）」の記載だけで、基地とは分かりません。ヘリによる騒音被害、墜落の不安などから地元では基地撤去実行委員会が結成され、50年も運動を続けています。

最初に実行委員会の板倉博事務局長の案内で、隣接する青山公園からフェンス越しにヘリポートを見ながら説明を聞きました。このヘリポートへは毎日3回「定期便」があり、多くは横田からですが、座間や横須賀からも飛来し、木曜日の日米合同委員会開催日には要人を乗せたヘリが飛来します。ヘリポートには米軍の立てた看板「5分以上はエンジンを切れ」とありますが、守られることはなく、アイドリングで80デシベル以上、飛び立つときは100デシベルを超えます。

また米軍諜報機関の事務所があり、日本国内は出入り自由なので、諜報員にとっては天国のような玄関口だということです。また独身将校用の宿泊施設は厚木や座間、三沢などの軍人が週末になると宿泊し、遊びに出かけるといいます。

フェンス沿いに公園内を進んで、ぐるっと回ると正面ゲート。ゲートには銃を携行した日本人従業員が詰めており、写真を撮ろうとすると腕を「×」にして「撮るな」のポーズ。最後に六本木ヒルズの52階の展望台から眺めました。すぐ眼の下にぽっかり広がるヘリポートが良く見えます。

板倉さんは「目標はあくまで全面撤去ですが、当面は低空飛行の改善などを求めていく」と話していました。

(写真)六本木ヒルズから見た麻布ヘリ基地
ヘリポートの左下白い4階建てのビルが星条旗新聞社、その左が宿泊施設